

2020 年度事業報告

社会福祉法人カメラリア

2020 年度 事業報告

社会福祉法人カメラリア

1. 2020 年度の総括

当法人は乳幼児や児童に係る事業を中心に据え、2021 年 3 月現在で児童心理治療施設 1 施設、幼保連携型認定こども園 1 施設、保育所 3 施設、小規模保育事業 4 施設、放課後児童健全育成事業 4 施設、共同生活援助グループホーム 1 施設の 14 事業所を運営している。

2020 年度は 4 月に「かめりあ天空の森保育園」が開園。高台の立地でもあるため、入園希望者数の伸び悩みも危惧していたが、105 名の定員に対し、7 割以上の稼働率に至った。また、施設の老朽化、職員配置の効率化を図るために 2008 年から運営してきた「かめりあ原口児童クラブ」の事業を廃止した。

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、各施設においてはマスク着用、消毒などの感染予防策の徹底を図った。保育部門においては、行事の中止や縮小、保護者参加の行事の見直し等、利用者の安全と安心を図るための感染対策と保育の質の担保を見極めながら事業を展開した。特に、コロナ渦におけるサービス提供体制の強化策として、複数の事業所で保育動画の配信を行うなどの取組みも行った。また、長崎県大村市においては、2020 年 7 月の豪雨により職員駐車場や運動場の一部崩落等の被害が発生したが、利用者及び職員に大きな被害はなく、復旧工事を継続的に行っている。千葉県及び宮城県では 1 年間を通じ断続的に続く地震も見受けられるために、様々な角度からの災害対策の在り方をさらに検討していくことも必要である。全国的な新型コロナウイルス感染拡大防止策としての「家庭保育の協力」に伴い、2020 年 3 月は児童クラブの利用者数減少は顕著であり、事業継続への懸念もあったが、6 月以降は利用者数も安定した。また、あじさい保育園の一時保育事業においても、同様に課題を抱えていたが下半期に回復傾向となった。しかし、あじさい保育園近隣には継続的に新規保育所が整備されるなど、待機児童数の減少も含めた保育ニーズの変化も顕著なことから、2021 年 3 月で一時保育事業を廃止することとした。大村市の森学園においては、新型コロナウイルス感染予防としての外部交流の停止等の対応が余儀なくなるため、オンライン面談の実施など、治療におけるケースワークの困難さを補う取り組みを行った。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、かめりあ三城保育園（第二）内における定員の分割を図り、2021 年 4 月の事業開始に向け、かめりあ第二保育園（大村市富の原）、かめりあ上諏訪保育園（大村市上諏訪町）として事業所の移設等の準備を行った。

数年来の課題として人材確保や人材育成は引き続き課題を有している。人材確保の観点から実習生の積極的な受入、保育補助員制度の活用、各制度を活用しながらの処遇改善（給与等）、休日取扱いの見直し等を行い、大村市の保育関連事業所では応募が微増している。しかし、採用する年齢構成にやや偏りがあるために、人材育成や経営面（人件費）も見極めながら採用活動が求められる。年度中の育児休暇取得者は 7 名、育児休暇からの復帰は 9 名であった。人材育成においては、専門的知識や技能の習得に向けた研修等の充実を目指していたが、新型コロナウイルスの影響で各種研修会

等が軒並み中止や延期となったことから十分な機会確保ができなかった。しかし、子どもたちへの支援に関わる専門職として、専門的な知見かつ対応の基本を学ぶ機会として CARE™（大人と子どもの絆を深めるプログラム）のワークショップを実施。大村椿の森学園の直接処遇職員だけでなく、保育士や児童支援員なども受講し、子どもの支援における共通理解を図った。この取り組みは、次年度以降も継続して検討していくこととする。

また、2020 年度においては子育て支援の一環として、複数の家庭に対して専門的な治療プログラム（母子相互療法/PCIT）を実施。中長期的には地域での児童虐待防止にも寄与することから、多様な専門職を有する当法人の特性を活かした取り組みとして今後も進めていきたい。

財政面においては、事業活動収支収入は前年比 10.7%増、同収支差額は 7.7%増であった。人件費率は 68.1%で前年比 5%（支出に占める人件費割合 73.9%）となり、大村椿の森学園 60.2%、かめりあこども園 61.5%、あじさい保育園 74.6%、児童クラブ 63.0%と、業種や地域による違いもあるが事業所間の差は大きい。いちよう保育園においては、人件費率 76.9%となり過去最高となった。新規開設のかめりあ天空の保育園は人件費率 72.9%と大村地区では高い水準となっている。処遇改善等の取組みの一環として、次年度より保育部門のベースアップを図ることから、更なる経営の安定に向けた取り組みも必要である。

2020 年	4 月	かめりあ天空の森保育園開園
2020 年	8 月	かめりあ原口児童クラブ事業廃止
2020 年	11 月	職員駐車場（上諏訪）の復旧工事
2020 年	11 月	（仮）かめりあ第二保育園改修工事
2021 年	3 月	あじさい保育園 一時保育事業廃止

2. 事業所の概要

施設種別	施設名	所在	定員
児童心理治療施設	大村椿の森学園	大村市	55 名
幼保連携型認定こども園	かめりあこども園	大村市	190 名
保育園	あじさい保育園	市川市	100 名
	いちよう保育園	大崎市	90 名
	かめりあ天空の森保育園	大村市	105 名
小規模保育事業	かめりあ保育園	大村市	12 名
	かめりあ三城保育園	大村市	19 名
	かめりあ三城第二保育園	大村市	19 名
	かめりあ三城第三保育園	大村市	12 名
放課後児童健全育成事業	かめりあ児童クラブ A	大村市	40 名
	かめりあ児童クラブ B	大村市	40 名
	かめりあ児童クラブ C	大村市	40 名

	かめりあ三城児童クラブ	大村市	40名
	かめりあ原口児童クラブ (2020年8月事業廃止)	大村市	40名
共同生活援助事業	グループホーム元気ハウス	大村市	11名

3. 事業所の実績概要

3-1 大村椿の森学園

入所児入所及び通所のいずれにおいても前年より減少。治療においては、総合環境療法の概念を基本に、個別の心理面接や日常生活における支援等を行った。小中学生の教育体制においては、特別支援学校分教室3年目で主幹教諭の異動により、教育体制等の変化に応じて、情報共有や連携の強化を図った。職員処遇においては、より働きやすい環境整備に努めたが、新型コロナウイルス感染対策に伴う、業務負荷が増大しており、離職や職員の新規採用には課題が残った。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、面会を含む対面型の家族交流や体験的活動を取り入れることができず、ICT機器を活用したオンラインによる面会等の代替策を積極的に講じた。今後も、緊急対応を求められるため職員と児童が一体となって取組み、児童への治療効果にもつなげていきたい。

3-2 かめりあこども園

4月は206名(1号63名/2・3号143名)で開始、3月は214名(1号60名/2・3号154名)であった。1号認定の3歳児(年少)の新規募集に対して、募集開始日に8名の待機となり、園としての地域において一定の評価を得ていることもうかがえる。職員配置の面では、シルバー人材からの派遣保育士、子育て支援員、無資格者の募集等による人員確保を図った。新型コロナウイルスの影響により、研修等の機会が少なかったことから、小人数でのミーティングの実施など工夫した。また、運動会等の行事を中止、内容変更をして可能な範囲での行事を実施。感染対策により、手洗い消毒の励行が身に付き、感染症が流行ることが少なく園児の病欠率は例年になく低かった。給食では、誤嚥対策としての食材見直し、コロナ禍における給食環境の見直しを行った。保育面では、縫合を伴う怪我也あったことから再発防止に取り組みたい。また、1号の預かり料金を周辺私立幼稚園の金額を参考に見直しを行い、利用しやすい料金設定に変更した。

3-3 あじさい保育園

重点目標でもある職員確保の面では常勤2名を採用したが、短期間での離職となり増員に至らなかった。新型コロナウイルス感染防止のため、リクルート活動はもとより実習生も2名の受け入れしかできず、課題を残した。また、年度途中での主任保育士の退職もあり、園児数の伸び悩みにつながった。緊急事態宣言時には、職員全員でオンライン研修(事故防止ガイドライン)を受講し、園独自のガイドラインを作成した。また、登園できない園児に向け、職員による動画配信や電話連絡等を積極的に行い、園児や保護者の不安解消に努めた。通常保育となっても行事の見直し、中止や内容変更を図り、保護者参加が難しいものは、動画配信を利用した。また、緊急事態宣言中、一

一時保育、病後児保育、子育て支援（自主）は緊急以外の利用は休止となり、昨年度より利用者が減少となった。一時保育は年度中で委託料の保障の確約が市川市から得られなかったこと、近隣への保育園増加に伴い、需要も減少しているため、今年度末で事業廃止とした。施設面に関しては、エアコンの故障等もあったことから、10年による経年劣化を見極めながら今後はメンテナンス等を進めたい。

3-4 いちょう保育園

保育面では目標である「一人ひとりの発達に応じた保育」と「保育環境の整備」を継続的に実践。子ども同士の距離が密になり過ぎずに遊びに入り込めるよう、小さな場面設定の中で性質の違う設定を複数用意し、新型コロナウイルス対策との両立を図った。職員の人材育成等では新型コロナウイルスの影響もあり外部研修を控え、感染症対策の徹底・感染症に対する職員の意識向上を図った。要支援児童に対する対応においても更に職責に応じた役割も今後求めていきたい。いちょうマルシェ(子育て支援活動)は感染対策として中止した。

3-5 かめりあ天空の森保育園

2020年4月1日に認可保育所として開園し、70名でスタートした。人事異動職員や新規採用職員が揃い、子ども達が安心して過ごせる保育環境作りに努めた。新型コロナウイルス感染予防として2、3号認定においても、4月の緊急事態宣言中には家庭保育協力を依頼した。同時に手洗いや検温、消毒、マスク着用等の感染対策を図りながら保育を行った。また、緊急事態に備え、保護者への連絡手段として、SNS(LINE)を活用し、お便りや動画配信も行った。保育内容としては、行事を中止や延期を求められる中、大自然の中に囲まれる立地条件を活かし、野菜や果物など近隣の農地での体験活動も多く取り入れた。また、密にならない配慮として保護者参観の機会が減ることから保育の動画配信を行い、本園の教育保育を公開した。7月の豪雨では保護者連絡のタイミングなど課題も生じ、利用者の安全安心を確保するためにも、非常事態時の対応の見直しを今後は進めたい。職員においては、自己評価に伴う課題を整理し、よりよい保育の提供や職場環境の改善を引き続き行いたい。

3-6 かめりあ保育園

新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じるとともに子どもの健康状態の把握や園内消毒、玩具の消毒等の衛生環境に力をいれ、感染予防に努めた。保育面では、行事内容を変更・縮小し、対面での保育や食事を避ける工夫をした。一方で、小規模ならではの家庭的雰囲気大切にしながら一人一人の個性を認めきめ細やかな保育を目指し、子ども達の興味ある手作りの玩具を増やし、遊びの内容の向上を図った。職員配置等においては、子育て支援員を増員し常勤職員の早番、遅番の軽減を図ると同時に有休休暇の取得率を高めた。また、常勤職員は自己評価を行い、自己の保育を見つめ直すことができた。評価や反省は一覧にまとめ、保護者に向けて掲示し公開した。

3-7 かめりあ三城保育園

4月の園児数は定員数84%(16名)での開始。その後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と

して、家庭保育の協力の影響もあり、4～5月の要請期間中は7割程度の出席数だった。また、県内の感染者数を目安に園内消毒の頻度、行事の変更や中止、園児の受け入れ方法の変更等も行った。感染対策における職員のマスク着用や飛沫防止のパーテーション等で、乳幼児に与える影響などを心配したが大きな影響はなかった。保育内容についても、「園外保育活動」「英語遊び」「リトミック遊び」等の内容の充実を図った。併せて、2021年度からの移設に係る説明等も保護者には円滑に行うことができた。今後の課題としては、自己評価の結果を踏まえ保育指針の精読を図りたい。

3-8 かめりあ三城第二保育園

キャリアアップ研修で学んだことを活かし、各分野のリーダーを中心に進めていく予定だったが、新型コロナウイルスの影響で研修が延期・中止となり学びの機会が少なかった。年度後半にリモート研修が開催されたが、保育の合間に研修を受けることになるため、十分な機会確保に至らなかった。研修以外では、リーダー会議などを行い、三城地区3園の情報共有やより良い保育を求めて話し合いが進めた。保育室環境構成では、2歳児クラスの環境構成をもとに、0、1歳児クラスもコロナ遊びや年齢に合わせた遊びを充実させた。年度後半には、他のクラスで遊んだり、テーブルを出してパズルや粘土、絵画など静かに座って遊ぶことも楽しめるようになった。

3-9 かめりあ三城第三保育園

新型コロナの影響で研修参加がほとんどなかった。感染対策としては、状況に応じた園内消毒の仕方、三城地区3園合同の行事の見直しを都度協議しながら行った。また、職員による自己評価を実施。各職員が学期ごとに目標、反省を生かしながら職員の質の向上、より良い保育の提供を目指したい。また、職員の勤務体制として早番・遅番の在り方、新規職員の採用等は継続的な課題である。

3-10 かめりあ児童クラブ A、B、C

年度当初は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校の影響で児童の受け入れ時間が急遽大幅に変更され、職員の勤務時間や人員等にも大きく影響し変更や修正が求められた。

2020年度は新1年生33名の入所があり61名でのスタートとなった（前年度平均42.6名）。今後も年度初めの新規入所希望者が30名前後となることが予想され、職員の増員が課題となってくる。8月末でかめりあ原口児童クラブが閉鎖されたことで、児童クラブの継続利用を希望された10名が、かめりあ児童クラブABCへ移籍となった。職員については、今年度は長期休暇（夏休み）などに学生アルバイトを採用することで職員の確保に努めたが、今後も学生アルバイトを積極的に受け入れながら、契約職員等も確保していきたい。児童や保護者への対応としては、児童数が増加したことと、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、フロアの児童数の振り分けを配慮し、密にならないような対応、施設内の消毒や清掃、保護者の入室の制限や戸外活動の見直し（活動の一部中止）を行った。今後も小学校の臨時休業や行事等の中止や延期、施設の閉鎖等も考えられるため、社会情勢を注視しながら、児童と職員の健康と安全が保たれるように運営していく。

3-11 かめりあ三城児童クラブ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市内でも2020年3月3日より小学校の臨時休校が始まり、4月6日の始業式より学校は再開されたものの、再度4月22日より臨時休校が開始された。その影響で、2021年度も継続通所を予定していた児童が退所したり、児童クラブが利用できず自宅待機をした児童がいた。5月18日から通常授業が再開した後は、比較的これまで通りの児童が通所できていた。2020年度は43名からの新年度開始となったが、5、6月に新規入所があり45名を維持したまま2020年度を終了した。新型コロナ感染拡大防止のために、これまで実施してきた外部体験施設や公共施設の利用が難しく、施設内でできる活動を工夫して実施してきた。同じく、外部研修等も開催中止や定員の制限等があり、十分に活用することができなかった。

3-12 かめりあ原口児童クラブ

年度当初は新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校の影響で児童の受け入れ時間が急遽大幅に変更され、職員の勤務時間や人員等にも大きく影響し変更や修正が求められた。2020年8月末日付けでかめりあ原口児童クラブが閉鎖することは2019年12月より保護者や新年度入所希望者には周知しており、2020年3月末で退所する児童が12名、4月に新規入所する新1年生が2名となり、19名からのスタートとなった（前年度平均34名）。原口地区は富の原地区や三城地区と比較して緊急事態宣言で小学校が休業している期間の自宅保育の割合が高く、4月以降もそのまま自宅保育ができるとのことで退所につながるケースが多く（4月退所者5名、5月退所者2名）、閉鎖時には13名となり、9月からかめりあ児童クラブへ移籍した児童は10名だった。事業廃止に伴い、かめりあ原口児童クラブに勤務していた職員4名はかめりあ児童クラブABCに異動となり、移籍してきた児童の対応をすることで安定した活動ができている。

3-13 グループホーム元気ハウス

2020年4月は入居者10名から開始したが、年度中に1名が退居となった。さらに1名は長期入院中で現時点では退院が見込めないこともあり、2021年4月末時点で退居となる予定。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入院中の入居者の試験外泊等が予定通りに実施できないことや、新規入所についても体験入居や見学等が難しかったこともあり、新規の入居がなかった。

入居者については、不要不急の外出や外泊を控えていただき、買い物等も回数を減らすように助言して、回数が減ったことにより買いだめする量が増えた場合は職員が支援するなどの対応を行った。施設内での生活についても消毒や手洗いの指導、共有場所（キッチンなど）での過ごし方などを指導して感染予防に努めた。今後も生活面などにおいて、頻度や範囲の制限や中止等により通常的生活環境（習慣）が変更・制限されたことでの症状悪化が無いように、感染予防だけでなく精神面でのサポートに配慮していく。また、2020年11月19日に長崎県監査指導課による令和2年度指定障害福祉サービス事業者等実地指導（監査）が行われ、文書指導を受けた9項目について改善処理状況を報告した。その中で要件を満たしていなかった長期帰宅時支援加算と医療連携体制加算Ⅰ、Ⅱについておよそ130万円の過誤調整を行った。

4. 法人本部、全事業所に係る実績

4-1 理事会、評議員会

複数の新規事業を展開したことから、法人内の意思決定を諮るため、理事会を5回開催、評議員会を2回開催し、法人としての組織統制と牽制を図った。

・役員数 評議員7名、監事2名、理事6名

・理事会 5回開催

2020年6月3日、8月24日、10月2日、12月24日

2021年3月22日

・評議員会 2回開催

2020年6月23日、2020年10月5日

4-2 人材育成と人材確保

人材育成においては特に管理職、中間管理職の人材強化を図るための法人内研修会を計画したが、新型コロナウイルスの影響もあり実施できなかった。そのため、オンラインを活用して施設長間で実施する「管理運営会議」を立ち上げ、危機管理や財務管理も含めた報告の機会を設け、施設長の研鑽を図った。また、各事業所においては外部研修会の中止等に伴い、事業内研修を中心に、専門性の向上を図り、事業所毎の制度に則った処遇改善事業も実施した。大村市内の事業所においては、子どもへの支援の共通理解を図るために、トラウマインフォームドケアの概念も含め CARE™（大人と子どもの絆を深めるプログラム）のワークショップを実施し、大村椿の森学園は全職員（直接処遇職員）、保育所等は管理職及びリーダー的職員が受講した。人材確保においては、実習受入等も積極的に行ったが、十分な人材確保には至らなかった。

4-3 法人本部機能の強化

事務処理統一化に向けて、就業規則及び給与規程の見直しを図った。人事管理、組織としての意思決定、会計処理や書式等の一元化及び標準化を図るよう、今後も継続的に協議を実施していくこととする。また、大村市内の保育部門では、かめりあ天空の森保育園内に事務局として、事務機能を一元化し、効率的かつ正確な事務処理を図り始めた。

4-4 その他

ホームページによる情報公開及び各事業所における情報発信は適宜実施した。また、苦情対策は要綱に従い対応し、苦情解決第三者委員の活用までには至らなかった。安全管理面においても、日常的な安全点検等は勿論のこと、計画的な避難訓練の実施、災害時を想定した非常食体験等にも取り組んだ。また、県外在住者よりご寄付を頂き、一部を2020年度事業に活用した。

【寄付者等】

県外在住者（1名）、県内在住者（1名）、西日本新聞民生事業団、大村子供の家
一般社団法人ひとり親福祉会、フードバンク協和、つなぐBANK、九州ろうきん
生命保険協会長崎県協会、大村市

5. 地域貢献への取り組み

乳幼児や児童に係る地域のニーズ、社会問題に幅広く貢献できるような取り組みを実施した。また、2020年度は地域貢献活動として「フードバンクシステムによる、ひとり親家庭生活困窮世帯への「宅（食）所」「健康」「相談」総合支援に関する運営に参画した。

5-1 地域の子育て、児童福祉等に係る連携

- ・地域の子育て、児童福祉等に係る会議への参加

大村市要保護児童対策地域協議会、大村市相談業務担当者会、大村市子ども安全管理士協会、市川市子育て支援委員会、大崎保育研究会委員会、つなぐBANK 他

5-2 地域の子育て、児童福祉の人材育成に係る取り組み

- ・教職員等の施設見学及び児童虐待等に係る講義

令和2年大村地区初任者研修（特別支援学校） 他

- ・外部機関の研修会等における講師派遣

令和2年度児童福祉司任用後研修、大村市子育て支援員研修講座

- ・各種実習生の受入

長崎短期大学、長崎女子短期大学、長崎医療こども専門学校、福岡こども短期大学
聖和短期大学、仙台こども専門学校、東京経営大学、昭和学院短期大学
シルバー人材センター（保育支援員研修）

- ・職場体験の受入

長崎県立大村高等学校

- ・地域との交流

新型コロナウイルスの影響で実施なし

- ・施設見学等

保育園との利用希望者等については、新型コロナウイルス対策を講じながら実施

5-3 寄稿、発表

実績なし

6. 法人の沿革

- 2002年 5月 ・ 社会福祉法人カメラ設立
- 2003年 4月 ・ 情緒障害児短期治療施設 大村椿の森学園開設
- 2006年 5月 ・ 大村椿の森学園 多目的施設竣工
- 2008年 3月 ・ 富の原くじら児童クラブ開設
- 2008年 4月 ・ 大村椿の森学園 定員変更（入所定員を 35 名から 40 名へ変更）
・ 厚生労働省 2008 年度障害者保健福祉推進事業
- 2009年 4月 ・ 大村市立竹松幼稚園、竹松保育園の民営化に伴う事業譲渡により
くじら認定こども園の事業開始
- 2010年 3月 ・ 大村椿の森学園 内部改修工事
- 2011年 4月 ・ いちょう保育園開設
・ あじさい保育園開設
- 2012年 4月 ・ くじら認定こども園をかめりあこども園へ名称変更
・ 富の原くじら児童クラブをかめりあ児童クラブへ名称変更
- 2014年 7月 ・ かめりあこども園新築移転
- 2015年 9月 ・ 小規模保育園 かめりあ保育園開設
- 2016年 4月 ・ 小規模保育園 かめりあ三城保育園開設
- 2016年 12月 ・ 大村椿の森学園 グラウンド竣工
- 2017年 4月 ・ 児童福祉法改正に伴い、大村椿の森学園の施設種別名称変更
児童心理治療施設 大村椿の森学園
・ かめりあ富の原児童クラブ開設
・ かめりあ三城児童クラブ開設
- 2018年 1月 ・ かめりあ三城第二保育園開設
- 2018年 3月 ・ かめりあ多目的棟ビル竣工
・ 大村椿の森学園 学習棟整備
- 2018年 4月 ・ かめりあ児童クラブをかめりあ原口児童クラブへ名称変更
・ かめりあ富の原児童クラブをかめりあ児童クラブへ名称変更
・ かめりあ児童クラブの新築移転
・ かめりあ児童クラブ B、C 開設
・ 大村椿の森学園の教育体系が県立大村特別支援学校西大村分教室に移管
- 2018年 11月 ・ 共同生活援助事業 グループホーム元気ハウス開設

- 2019年 1月 ・小規模保育園 かめりあ三城第三保育園開設
- 2019年 3月 ・かめりあこども園 運動場拡張整備
- 2019年12月 ・かめりあ天空の森保育園 職員駐車場整備
- 2020年 3月 ・かめりあ天空の森保育園 竣工
- 2020年 4月 ・かめりあ天空の森保育園 開設
- 2020年 8月 ・かめりあ原口児童クラブ 事業廃止
- 2021年 3月 ・あじさい保育園 一時保育事業廃止

以上